

岡山県立岡山朝日高校

高い志 ～限界への挑戦～

取組等の概要



JAXA訪問



筑波大学訪問



イギリスサイエンスカレッジ

1 東京大学をはじめとする難関大学・国公立大学医学部への進学実績

①「高い志」をキーワードに、組織的で丁寧な指導

- ・ハイレベルな教師陣による「入れる大学ではなく、入るべき大学へ」という指導

②「本物に触れる機会」の設定

- ・JAXA・国会・最高裁判所等の見学や、東大教授や同窓生の各界著名人による講演（年間5～6回）

③「文武両道」の実践と限界への挑戦

- ・県内最多を誇る部・同好会数（運動部16・文化部21・同好会4）
- ・60年を超える伝統行事である富士登山やスキー教室

2 グローバル社会に向けての取組

①ケンブリッジ大学でのサイエンスカレッジ

- ・イギリスの姉妹校（モンクス・ウォークスクール）との共同研修

②科学オリンピック等への挑戦 ～全国大会から国際大会へ～

- ・数学・物理・化学・生物等の国内大会、サイエンスチャレンジ等への積極的参加。興味関心の高まりにより才能が開花。

（国際オリンピックでメダル獲得）

- ・ダンス部の国際大会での活躍（ミスダンスドリルinUSA）

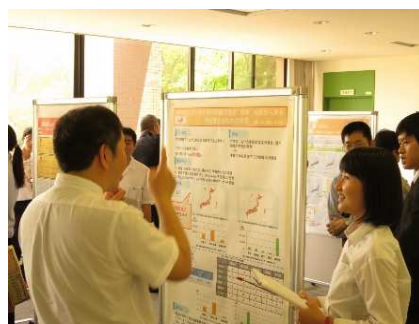
岡山県立岡山操山高校

未来航路（課題研究）による 科学的思考力・判断力・表現力の育成 と18年の実績

取組等の概要



オーストラリア・アデレードでの街頭聞き取り調査



地域地理学会におけるポスターセッション



わくわくフリー塾で小学生対象にGISの指導

併設の岡山操山中学校が平成14年に開校されたことを契機に、探究活動の一つとして「未来航路」という名称で課題研究を取り入れました。

平成27年には、文部科学省からスーパーグローバルハイスクール（SGH）に指定され、SGHのプログラムの1つに「未来航路」を位置付けました。

2年生は、「貧困と飢餓」、「紛争と戦争」、「健康と疾病」、「教育」、「貿易と開発」、「持続可能な開発と環境問題」などのテーマのもと、グループで課題研究に取り組んでいる。さらに3年生は選択者が、進路希望の学部学科の学問領域を意識しながら、課題研究をより学術的に客観的データの収集・分析・表現、内容の論理的展開に重点をおいて取り組んでいます。

オーストラリア研修では、アデレードの中心商店街や大学において課題研究に関する聞き取り調査を行いました。

また、課題研究で身に付けたGISの技能を活用して、岡山市子どもセンター主催の「夏休みフリー塾」（2018年8月3日開催）で、高校生10人が小学生を対象に、デジタルマップの作り方や分析方法を指導しました。

岡山県立岡山芳泉高校

台湾の姉妹校生徒との交流、英語づけの留學生活を経験できる機会があります！

取組等の概要



本校は平成30年10月4日に台湾の瀛海高級中学と姉妹校協議書の締結を行いました。

【瀛海（インハイ）高級中学の概要】

* 1959年創立の私立中高一貫校。台南市内で進学実績が最も高いと評価される学校の一つで、台湾国内で最難関とされる、国立台湾大学の医学部に毎年合格者を出しています。

* 中学部が20クラス（各クラス40人）、高等部が23クラス（各クラス40人）というマンモス校です。キャンパスも広大です。

* 2017年、国際コースを新設しています。国際コースでは、イギリス・ケンブリッジ大学の認定を受けた教育内容に基づいて、全科目を英語で学んでいます。（芳泉高校から希望があれば、国際コースへの短期～長期の留學が可能という申し出を受けています。）

【今後の交流予定】

* 高等部の生徒とSkype等インターネットを利用したオンラインでの定期的な交流を予定しています。

* 短期～長期でのインハイ高級中学（国際コース）への留學が可能です。イギリスのケンブリッジ大学の認定を受けたカリキュラムで、全科目が英語で行われる授業に参加できます。

* インハイ高級中学の生徒が、修学旅行で平成31年5月末頃、岡山を訪問する予定です。その際には本校生徒との交流を予定しています。

岡山県立岡山一宮高校

最先端研究所研修

☆出る杭をのばせ！！



スーパーサイエンスハイスクール IM（一宮メソッド）エクステンドプログラム

取組等の概要



JAXA



東京大学生産技術研究所



日本学生科学賞受賞者

最先端研究所研修は、SSH 3期目の指定を受け、新たに実施されたプログラムです。この研修は、理数科課題研究のさらなる深化を図るため、理数科1年生の核となる生徒集団の育成を目的として、毎年3月上旬に3泊4日の日程で行われています。

今回の研修は、理化学研究所横浜キャンパス、東京大学生産技術研究所、国土地理院、筑波実験植物園、産業技術総合研究所、JAXAを訪れました。

中でも東京大学生産技術研究所では、砂田研究室班と南研究室班に分かれ各研修班で実験を行い、考察をしてプレゼン発表を行いました。高校にはない実験器具や最先端の実験に触れることができました。さらに、プレゼンの方法や質問の大切さも学び、研究の一連の流れを最先端の実験で体験することができました。

この研修を通して、実験や研究の楽しさをあらためて感じることができました。最先端の研究にリアルタイムで触れることやすばらしい施設や実験機器を見学することができ、貴重な体験をたくさん積むことができました。また、東京大学の先生方や大学院生をはじめとする研究者との交流を通して自分の将来について考えることもできました。今回の研修の様子は、東京大学「環境報告書2018」にも掲載されています。

昨年、この最先端研究所研修に参加された3年生の先輩方は、第62回日本学生科学賞岡山県審査において、最優秀の「県知事賞」を受賞されました。

岡山県立岡山城東高校

「ステージは世界だ！」

～グローバルリーダーを育てるオンリーワンの教育を展開しています～

取組等の概要



オーストラリア（サドゲイト高校）



マレーシア（アビタム高校）



韓国（桂園藝術高校）

本校は「ステージは世界だ！」という取組みの中で、グローバルリーダーを育てるために、様々な国際交流プログラムを展開しています。希望すればすべての生徒が1年次、2年次で海外体験の研修に参加することができます。また、海外交流校の来校や長期留学生の受け入れなどにより、海外の高校生と一緒に学校生活を送ったり、ホームステイに協力したりすることで、日本にいながらにして異文化体験をすることができます。

○海外文化体験研修

- ・参加者及び期間 1年次生希望者 15日間
- ・国（地域） カナダ（バンクーバー）、オーストラリア（ブリスベン）
- ・活動内容 ホームステイ、少人数英語クラスでの研修や大学、高等学校訪問等

○学類研修（修学旅行にあたる行事）

- ・参加者及び研修地（平成31年度予定）
2年次生 国際教養学類の全員（韓国）、音楽学類の全員（台湾）
人文社会学類・理数学類の選択者（マレーシア）
- ・活動内容 現地高校との交流、現地大学生との自主研修、博物館等市内視察等

○海外高等学校との交流

- ・姉妹校 慶南外国語高等学校（韓国）、金海外国語高等学校（韓国）
- ・受け入れ 9月、10月に来岡、ホームステイ、授業参加、交流会
- ・訪問 6月学類研修で国際教養学類が訪問、高校の寮に宿泊、授業参加等
- ・その他 スカイプによる交流

○留 学

- ・受け入れ ドイツ人男子生徒（平成30年9月～平成31年6月）
- ・長期留学 2年次生徒がニュージーランドの高校へ留学（平成31年3月～平成32年1月）

○その他

グローバルな視野と主体的・協力的な実践力を育成するため、1・2年次全員が、チームで地域や地球規模の課題を解決する研究を行う課題研究に取り組んでいます。

岡山県立西大寺高校

充実した**海外短期研修** 毎年100名を超える生徒が異文化体験！

取組等の概要



現地高校生との記念撮影



現地高校生との交流会



お別れパーティー

本校では、創立108年目にあたる平成25年度から実施している"GLOPS-108" (Globalization Oriented Program Saidaiji 108)の取組をととして、コミュニケーション能力・語学力の育成、異文化理解を進めています。

特に1年時には、「コミュニケーション能力育成プログラム」を実施しており、その成果を計る取組の一つとして、希望者に3月に海外での短期研修を実施しています。今年度は平成31年3月6日～3月19日の14日間、オーストラリア・ブリスベンで実施を計画しており、100名の生徒が参加する予定です。

国際情報科の生徒に加えて、商業科・普通科からの参加も多く、毎年100名を超えており、岡山県内の県立高校では海外短期研修の参加者が多い学校の一つです。

参加した生徒は、ブリスベン近郊のホスト宅にステイしながら、平日は現地の高校に分かれて語学研修や現地校体験、交流授業を、週末にはホストファミリーとの交流をととして、コミュニケーション能力の向上を図るとともに異文化理解を深めています。

40万円程度の経費が必要ですが、「岡山の高校生留学支援事業」等の制度を活用して負担軽減を図ることもできます。

参加した生徒は、自分の意思を明確に示すことの大切さなどを学び、日常会話を含む英語への学習意欲が向上するなど多くの成長が見られ、本校の進めるグローバル教育を担う重要な取組となっています。

岡山県立瀬戸高校

地域課題から世界課題へSDG sで考える

最先端のキャリア教育

「セト☆ラボ」「S☆ラボ」と「6つの力」

取組等の概要



「見つけた地域の課題から請願書を考える。チームで対話的に学ぶと楽しい」



「地域の方との交流会で、地域は自分達で変えることができるのでは、と感じた」



「備前市の観光に提案。ストーリーを考えることにやりがいを感じた」

○取組の目標

社会に開かれた教育課程で、グローバルな視点を持ち、地域社会に貢献する生徒、卒業後も向上心を持って学び続ける生徒を育成しています。

○取組の特徴

- 1 地域振興関係者や地元産業界の方と連携
- 2 岡山大学（SDG s）と連携
- 3 瀬戸高で付けたい6つの力の推進

○取組の概要

- ・ 課題研究「セト☆ラボ」（1年）・・・地域課題を知り探究する
講演会、地域振興関係者や地元の産業界の方を囲む会【①受けとる力：聴く・メモをする】
フィールドワーク【②つながる力：仲間とつながる・地域とつながる】
セト☆ラボセッション【③伝える力：言葉で伝える・プレゼンする】
- ・ 課題研究「S☆ラボ」（2年）・・・地域課題から世界課題へSDG sで考える
岡山大学SDG s 講演会【④見つける力：新たな価値を見つける】
企業の方とのSDG s セッション【④見つける力：課題を見つける】
S☆ラボセッション【⑤考える力⑥より良くなろうとする力：問題を解決する】
- ・ 2018年度連携先 赤磐市役所、瀬戸内市役所、備前市役所、岡山市東区役所、和気町役場、瀬戸町（光軽金属工業株式会社、麒麟ビール株式会社岡山工場）、赤磐市（テイカ株式会社、みのる産業株式会社、株式会社西山ファーム）
瀬戸内市（日本オリーブ株式会社）、和気町（北川病院・老人福祉保健施設エスペランスわけ）、備前市（日生地区海運連合・岡山県船主協議会）、岡山大学

岡山県立瀬戸高等学校ホームページ

URL <http://www.seto.okayama-c.ed.jp/>

岡山県立高松農業高校

高農の自慢は

「地域開放型ふれあい市」だ!!

取組等の概要



学校での学習内容を発表する機会の場合として、地域開放を行い地域との連携を深めています。

●年2回 春（4月第4土曜日） 秋（10月第4土曜日）

●学科ごとの特色を活かした農産物、農産加工品を販売（私たちが生産から販売まで運営しています）

農業科学科…米、有機米、各種野菜、トマトゼリー

園芸科学科…各種花（鉢物、苗物）、ハーブティー、寄せ植え、芝人形づくり

畜産科学科…ソフトクリーム、豚肉加工品、鶏卵、堆肥、ふれあい動物園

農業土木科…測量技術を活かした会場準備

食品科学科…カステラ、ジャム（イチゴ、キウイ、白桃）、パウンドケーキ

●郷土芸能部、吹奏楽部…最上太鼓の演奏を通して地域の伝統文化を継承している。また吹奏楽部も行事を盛り上げるために参加し、高い評価を得ている。

岡山県立興陽高校

「世界らん展日本大賞」に挑戦

取組等の概要



造園デザイン科では、スペシャリストを目指して日々、専門技術を学んでいます。その中で1998年度より毎年7万人以上の入場者がある「蘭おかやま」へ、2001年度より毎年15万人以上の入場者がある「神戸らん展」へ作品を出展してきました。そしてついに、10年間に渡る、各蘭展での実績が認められ、2010年度から、読売新聞社内の世界らん展事務局より出展案内をいただき、東京ドームで開催される「世界らん展日本大賞」へ挑戦しています。

世界らん展とは、洋蘭、東洋蘭、日本の蘭など世界各地のさまざまなジャンルの蘭を集め、世界21か国が参加し、約3000種、約10万株以上の蘭が展示されています。また、観客動員数は約12万人。28回目を迎える日本最大の蘭の展覧会です。

私たちは、ディスプレイ部門（展示小間サイズ「間口」8m×「奥行」6m＝「面積」48㎡「高さ」7m迄）の区画に出展する作品づくりをおこなうため、毎年、10月から活動をスタートしています。まず、出展する作品をどのようにするか造園計画の授業で、一人一人が設計をおこないます。その際に大切にしていることは「造園」らしさを作品に織り込むことです。クラス全員で設計した図面の中から、良い図面を何点か選び出し、代表の生徒が一つの図面を仕上げます。その図面をもとに放課後の時間を使い、作品づくりに取り組みます。約1ヶ月かけて制作し、文化祭で試作品を展示します。（その際にはランを飾らない作品）その後2月の本番に向けて、手直しを重ね、本番では15名の代表の生徒が東京ドームでの作品制作をおこないます。

この活動は、4ヶ月間、造園デザイン科2年生全員の作品づくりですが、その中には、さまざまな苦労や失敗を重ねながら人としても造園デザイン科の生徒としても成長できる取り組みです。先輩から後輩へ志を受け継ぎ、続けている挑戦。この取り組みの成果は私たちや卒業生の心の中で今もなお脈々と生き続けています。私たちは、この経験や思いを後輩達に伝え、これからも続いていく造園デザイン科の様々な活動や新たな取り組みに生かし、造園文化を発信しています。

岡山県立瀬戸南高校

「地の利」を生かした**共育**（きょういく） ～学園天国と地元応援団～

取組等の概要



研究・学習：ブドウの長期保存



商品開発：パクチーおかき



交流活動：動物ふれあい交流

本校は、農業科（生物生産科：栽培・飼育、園芸科学科：果樹・野菜・草花の計5類型）と家庭科（生活デザイン科：保育・福祉の計2類型）のある専門高校です。

また岡山県の東備地域は、幼・保・小・中・高・支援・大学と多彩な教育施設が存在する「学園天国」であり、これらの学校や地元自治体、企業が「地元応援団」として、まちづくりや地域貢献に取り組んでいる本校を積極的に支援してくれています。

こうした立地条件「地の利」が正のスパイラルを生み、その上に本校は様々な連携により共に成長すべく「共育活動」を行っています。

学園天国	地元応援団
<p>《 交流活動 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の親子クラブとふれあい動物交流（飼育） ○千種認定こども園との動物ふれあい交流（保育） ○江西桜こども園とのブドウ収穫交流（果樹） ○江西小学校2年生との野菜交流（野菜） ○江西小学校2年生との花植え交流（草花） ○江西小学校5年生との稲作交流（栽培） ○上道地区小学生との料理教室（生活デザイン科） ○東備支援学校との交流会（生徒会） ○岡山盲学校との交流会（保育） ○瀬戸町沖地区住民との花植え交流（草花） ○地域住民とのシクラメン講座（草花） 	<p>《 現場実習 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保育園・幼稚園実習（保育） ○福祉施設での実習（福祉） ○瀬戸駅での車いす体験（福祉） ○農家・農業法人での農業インターンシップ（農業） ○乳牛の審査学習（飼育） ○（有）スコレーへの視察研修（果樹） ○赤磐市のバスクラサン生産の調査（果樹） ○地域の催事場での草花苗販売（草花） ○農マル園芸での寄せ植え甲子園参加（草花） ○台湾視察研修：市場調査と岡山農産物販売実習 （おかやま創生高校パワーアップ事業）
<p>《 研究・学習 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○岡山県農業大学校との研究発表会（果樹） ○岡山大学とのブドウの長期保存の研究（果樹） ○岡山大学とのメロンのひも栽培の研究（野菜） ○岡山大学とのプリムラの開花調節の研究（草花） ○岡山大学大学院との鉄肥料の研究（栽培） ○和牛共進会への参加（飼育） ○点字学習、手話学習（福祉） ○絵本読み聞かせ学習（保育） 	<p>《 商品開発 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「石窯パン工房麦のひげ」との米粉パンの開発 （生活デザイン科） ○「山本製菓」、地域農家とのパクチーおかきの開発 （栽培） ○「笹笠醤油」との黒大豆醤油の開発（栽培） ○「レ・ジャンシック・パティスリー・フランセ」との ブドウを利用したスイーツの開発（果樹） ○葉酸を強化した葉酸タマゴの開発（飼育）
<p>《 連携を支える組織 》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○二水会（月1回、地元地域の関係機関の所属長が集う定例会議） ○瀬戸南高校地域共育審議会（おかやま創生高校パワーアップ事業） 	

岡山県立岡山工業高校

「グローバル化に対応した工業高校」

を目指すOKAKO!

～カンボジア姉妹校との交流、創立117年目にスタート～

取組等の概要



☆カンボジア姉妹校（2校）交流

- 今年の1月、カンボジア王国の2校と姉妹校縁組を締結しました。
- 今年の7月、姉妹校2校の校長先生を含む7名の方を本校にお招きしました。クイズ形式を取り入れた全員参加型の講演をしていただきました。

☆今後のグローバルプラン（計画）

- 校内に設置しているGlobal News 掲示板（上中央の写真）の内容について、皆でアイデアを出し合いながらタイムリーに更新します。
- Skype（スカイプ）を使って姉妹校の生徒とリアルタイムで交流することで、コミュニケーション能力・異文化理解力を高めます。
- 姉妹校の工業高校生と現地交流することで、労働者・指導者としての海外における日本人の果たす役割について考えるなど、グローバルマインドを養います。
- カンボジア・ベトナム等で、ものづくりのインターンシップ実現を目指します。

☆留学支援事業・国際交流事業

- 今年の3月、インドネシア西ジャワ州教育訪問団30名が本校を視察しました。
- 今年度、昨年度併せて6名が短期留学、ホームステイ、交流事業等の海外研修を実施しました。



岡山県立東岡山工業高校

東エグローバル人材育成プロジェクト

取組等の概要

ものづくり教室 in English

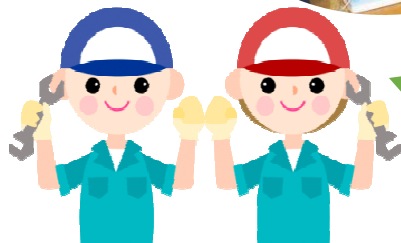


● 近隣の小学校で開催

外国語教育が導入される中、小学生の「外国語活動」の機会として



pliers



工業高校生と英語で「ものづくり」

【目的】

工業科の専門高校として、学んだ知識と技術を活かすものづくり教室を、英語を使って行うことで、豊かな語学力やコミュニケーション能力、チャレンジ精神や異文化を理解する精神等を育み、将来様々な分野で活躍するグローバル人材の育成を目指す。

国際交流



● 岡大留学生と交流



留学生との「ものづくり教室」

【メンバー】

● 専門5科

機械科 電気科 電子機械科

工業化学科 設備システム科

課題研究班メンバー

● 公募に応じた生徒

参加者数 平成29年度：15名

平成30年度：35名

【内容】

平成29年度：11月27日

「ぶるぶるモーターであそぼう」

岡山市立幡多小学校にて実施

平成30年度：10月27日

岡山大学の留学生と交流

モーターを使った車のおもちゃを製作

11月20日：岡山市立竜ノ口小学校で開催予定

11月28日：岡山市立幡多小学校で開催予定

岡山県立岡山東商業高校

新規店舗に対する商品開発 から始まる地域活性化

取組等の概要



店舗での試食をしている様子
現在は実際にメニュー化され、販売されている。（期間限定・曜日限定）

- ・ 3年生が履修している課題研究の選択講座の中に「ベンチャービジネス」という講座があり、毎年コラボ商品を開発し、商店街や天満屋、11月に開催される東商デパートでの販売を行っています。
- ・ 今年度は表町商店街で店舗を運営している方から東商生とコラボをして、商店街に人を呼び込みたいとの要望があった。内容としては5月にオープンする和食の店のメニューを考えて欲しいということでした。
- ・ 代表者との話を学校に持ち帰り、生徒に伝え、商店街でのアンケート（市場調査）などを行いながらメニューの考案をし、店舗に提案をしたところ、カレーと和風ハンバーグを曜日限定でメニューとして提供することになりました。
- ・ 夏季休業中には数名ずつ生徒が実際に店舗に伺い、店舗の手伝いをしながら商品をアピールするためにはどうしたらいいかを考える機会をいただきました。
- ・ 2学期からは授業時間（毎週木曜日の5・6限）に生徒を数名ずつ派遣し、店舗の手伝いをする予定です。
- ・ 今後の展望としては、地域（商店街）に人を呼び込むためにイベントを開催したいという要望もあるので、イベント内容の考案、またはメディアを有効に使ってのプロモーション戦略などを一緒に考えていきたいと考えています。

岡山県立岡山南高校

産学連携実学体験プロジェクト

—M P S (Minami Practical Science)—

～ 服飾デザイン科の学びを活かしたキャリア教育 ～

取組等の概要



M P S 2014 10年先を見据えた
「次世代体操服」企画



磐梨中学での合同検討会



M P S 2015 赤磐市立磐梨中学校
「平成28年度入学生着用体操服」企画



M P S 2016 岡山市立岡輝中学校
「平成29年度入学生着用女子制服」企画



PTA連合会連絡協議会研修大会で発表



M P S 2017 本校
「平成30年度入学生着用女子夏制服」企画

1 取組の目的

服飾デザイン科で学ぶ生徒に、地域における自己の役割を理解させ、将来地域の生活産業界で活躍するスペシャリストとなるために必要な資質を養うことを目的に、平成26年度より企業と連携した実践活動「産学連携実学体験プロジェクト—M P S (Minami Practical Science)—」を行っています。現場の企業活動を知り、実際の商品企画に取り組む中で、生徒が地場産業の優位性を認知し、社会人基礎力を養い、さらに高度で実践的な知識・技術を習得させることを目指します。

2 取組の内容

今年度の取組は、現在日本が抱えている社会問題(地方の衰退・資源の枯渇・在留外国人の増加・多様性が求められる社会等)に対応・解決する制服を考えることです。

連携企業である制服製造業の企画担当の方に指導をいただき、制服を8つ企画しその中の3企画について実際にサンプル製作をしていただきます。

また新たな試みとして、岡山商工会議所に所属されている企業の会員の方に生徒の企画を評価していただき、社会で通用する視点や、論理性を学んでいます。

岡山県立岡山御津高校

地域に出て地域に学ぶ！！

高校生が参加する地域創生 御津キャンパス学
地域課題発見解決学習 ルネス学

取組等の概要



地域包括支援センターの方の講話



グループディスカッション



デイサービスセンターで交流や職員の方へのインタビュー

本校では、「社会貢献活動」「授業等での実習・職場訪問」「地域行事への参加」、教育資源を地域に提供する「公開講座」等の活動を通して、地域との繋がりを図ってきました。これらの取り組みに加え、「ルネス学（地域課題発見解決学習）」を導入しました。地域と協働・連携して行う教育活動全体を「御津キャンパス学」と総称し、地域を学びの場であるキャンパスとして捉え、地域に出て地域に学ぶ学習を目指すこととしました。

これからの社会は、機械による自動化・AI化という従来の延長では考えられない変革期を迎え、次代を担うための「生きる力」を育成することが求められています。

そこで、従来から行ってきた個人での取り組みである「卒業研究」に替えて、地域に存在する課題の解決方法や魅力を高める方法など、正解のない課題にグループで取り組む「ルネス学（地域課題発見解決学習）」を始めています。

【ルネス学の取り組みの概要】

- ・探究活動の方法を知る。
大学の先生による地域学の講話
- ・地域を知る
地域を知る方々による講話
地元施設へのインタビュー・アンケート調査
- ・課題と課題解決への仮説を設定
- ・探究活動
インタビュー・アンケート調査、実験・実習等課題解決方法を探究する。
- ・成果発表
研究成果を地域へ伝える。

活動を通して、論理的思考力、課題発見能力、自律的判断力、情報収集活用力、人間関係形成力、創造力、コミュニケーション力、表現力の育成を図ります。

岡山県立倉敷青陵高校

高質な学力の養成

Only One in Seiryō 土曜 FW講座

～生徒の知的好奇心を育む取組～

取組等の概要



倉敷青陵高校では、「土曜FW講座」を原則、毎週開講しています。

FWとは、「Forward（一歩前進めざし）・Free（自由意志で）・Favorite（好きな講座に）出るWeekend（週末）」のことです。

基礎的な質問講座から外部講師を招いての教養講座まで、他に類を見ないほど多様な講座を開講しているのが特長です。

現役での国公立大学進学率 全国2位 (70.66%)
出典：週刊朝日 6月22日号

①大きな夢を持つ人を応援します！

例えば、東大の合格を勝ち取るために、通常の授業だけではなかなか対応出来ないのが英語のリスニング対策。本校では学年の枠を越えて、東大を志望する2年生と3年生が合同で「東大リスニング対策」を受講しています。目標を同じくする生徒同士が学年の枠を越えてお互い切磋琢磨し、より高い教育効果を上げています。

<学年の枠を越えて開講された講座の例>

古文基礎講座(2,3年)・英検2級合格講座(全学年)・化学質問講座(全学年)

②社会の期待に応える人を育てます！

「教養講座」と銘打ち、現代を生きるために不可欠な教養を学ぶ講座を用意しています。生徒の知的好奇心・探究心を育む、他に類を見ない講座を開講しています。

<テーマ例>

「水耕栽培で野菜を収穫」「人間とは何かを考える」「自分に向き合うとは？」

③本物に出会う空間を提供します！

大学から講師を招いて、「学問」や「研究」に触れる機会を提供する講座や、大手予備校から有名講師を招いて「難関大合格セミナー」を開講しています。

<講座の例>

- ・東大・京大・慶応大から先生を招いての「先端学問特別講座 [物理、化学、英語、心理学、哲学、環境学、食品学、考古学]」(保護者も聴講できます)
- ・鳥取大の先生を招いての「模擬講義[農学]」
- ・「青陵サイエンストーク(岡大資源植物科学研究所[生物]、川崎医福大[心理])」

岡山県立倉敷天城高校

スーパーサイエンスハイスクール —米国NASAや国内の各種大会で力を思う存分に発揮!!!—

取組等の概要



「第14回高大連携理数科教育研究会 兼 第17回岡山県理数科理数系コース課題研究合同発表会」における英語による研究発表（2017年2月4日：岡山大学）



文部科学省等主催「スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会」（2018年8月8日：神戸国際展示場）



国立研究開発法人 科学技術振興機構「さくらサイエンスプラン・ハイスクールプログラム」（2018年7月23日：本校サイエンス館におけるアジアの高校生との交流）

倉敷天城高校では、平成17年度に文部科学省からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の研究指定を受け、将来、国際的に活躍できる科学技術系人材を育てることに力を入れています。

主な取組として、岡山大学の先生や留学生の方に来ていただき科学実験講座などを行っています。また、平成18年から米国ミズーリ州カンザスシティにある姉妹校のバーストー校に行き科学交流を行ったり、平成29年度からは、行き先をNASA JPL（ジェット推進研究所）に切り替えて、米国研修を行ったりしています。NASAでは現地の研究者にも興味を持っていただき、喜ばれていますし、日本では見ることのできない宇宙開発の最先端の研究に直接触れる大変貴重な経験をしています。

これらの成果として、「岡山県理数科理数系コース課題研究合同発表会」で英語で発表した班が「優秀賞」を受賞したり、今年8月に神戸国際展示場で開催された文部科学省等主催の「SSH生徒研究発表会」において英語と日本語でポスター発表を行い「ポスター発表賞」を受賞するなど、その成果が表れています。さらには、今までの活動が認められて、7月には「さくらサイエンスプランプログラム」での訪問校に選ばれ、中華人民共和国の高校生と交流を行うこともできました。

皆さんも、天城高校でこんな素敵な体験を、一緒にしてみませんか？

岡山県立倉敷南高校

グローバル時代に活躍できる人材って？

“多様性”をキーワードに、グローバルな社会で輝ける生徒を育てます！

取組等の概要



8月9日(木)～16日(木)
校長先生を含む18名の教員・生徒がクライストチャーチ市（ニュージーランド）にある
カシミア高校を訪問して、**姉妹校**の調印を行いました。



「トビタテ！留学JAPAN」には4年連続参加（平成30年度はニュージーランド）。「岡山県短期留学プログラム」（カナダ・オーストラリア）「倉敷市姉妹都市訪問青少年生活体験団」（カンザスシティ市）「岡山県日中教育交流」（上海）などの海外短期留学への参加生徒も年々増加しています。

平成31年度には、カシミア高校の生徒が4度目の本校訪問。倉敷の街を案内したり、一緒に授業をしたりして異文化交流を行います。



平成30年度岡山県高校生
英語ディベート大会で
優勝、準優勝と上位を本校が独占！

シンガポール修学旅行も2年目になりました。
現地の日系企業訪問のプログラムもあり、海外で働く人達の話を直接聞いています。

カンボジア研修はこれまで3回実施。
PKO活動中殉職された本校卒業生
高田晴行さんを偲んで作られた
タカタハルユキスクールを訪問しました。

Minami-PROJECTS

倉敷南高校は、未来社会に自分らしく生きていく力を育むために、“Minami-PROJECTS”に取り組んでいます！

岡山県立倉敷古城池高校

KOJOIKEアクティブプラン

～「伸びる環境」と「伸ばすシステム」が、
一人ひとりの可能性を最大限に伸ばします～



取組等の概要

■「KOJOIKE アクティブプラン」とは

探究活動を中心とした「総合的な学習の時間」や、「知識・技能」だけでなく、これからの時代に必要な「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を効果的に育成する授業を、学校を挙げて実践するためのプランです。

アクティブ・ラーニングやICTの有効活用、質の高い言語活動等を通じ、また、地域社会の様々な人々との繋がりや協働等を通じ、これからの社会を、自分らしく、よりよく生きるために必要な力を育成します。



「KOJOIKE アクティブプラン」に基づいた授業の様子



コンビナート企業把握訪問



水島コンビナート紹介クルーズ



水島地域 聞き書き



「総学」理・農分野の探究活動



ラーニングルーム

■「KOJOIKE アクティブプラン」を通じて

グローバル化、多極化が進展するこれからの厳しい時代を生き抜くために、新しく学習指導要領が改定され、また、大学入試が大きく改善されます。本校では、それらの改定・改善にいち早く対応し、先導型プランとして策定した「KOJOIKEアクティブプラン」を通して、荒波の時代を、夢をもって、実りある人生を送ることができるよう最大限の後押しをします。

岡山県立倉敷中央高校

岡山県唯一の福祉科！

～私の夢は医療・福祉のスペシャリスト！～

取組等の概要



1 在学中に専門資格をめざす

- 介護福祉士国家試験受験資格
- 介護職員初任者研修
- 医療的ケア基本研修修了

2 充実したカリキュラム

- 学んだ理論が現場で実践できる介護実習（3年間で約60日）
- 大学訪問や施設訪問などの校外学習

3 学びを地域へ ～地域交流～

- ウェルフェアデー（9月）

福祉科最大の行事。お世話になっている施設や地域の方々へ、感謝を込めておもてなし

- その他

校内外のイベントやボランティア活動としてハンドマッサージなどで交流

4 地域の医療・福祉を支える人材の育成 ～多様な進路～

- 資格を生かし、即戦力として就職 → 病院や介護施設 など
- 介護福祉士に加え、「社会福祉士」「看護師」「保育士」「教員（福祉・特別支援）」「言語聴覚士」「作業療法士」「理学療法士」などのダブルライセンス取得をめざして進学 → 国公立・私立大学（4年制）など

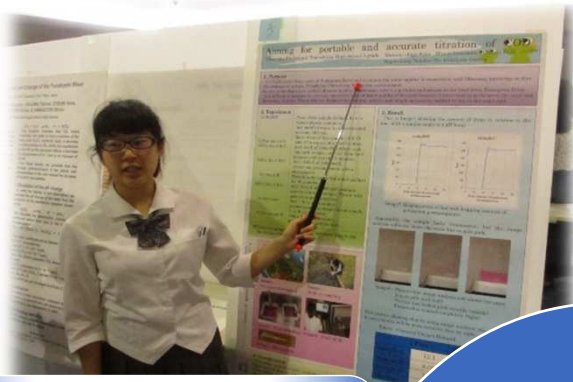
私は将来、障がいのある子どもたちの教育がしたいと思っています。そのために必要な特別支援学校一種免許の取得をめざしています。私が福祉科で学べてよかったと思うことは2つあります。1つは介護実習やウェルフェアデーなどの行事で、高齢者・障がい者などさまざまな人に出会えたことです。また介護実習では看護師やリハビリ職の仕事にも触れることができます。2つめは、介護福祉士をめざす仲間とともに介護に関する知識・技術の高め合いができたことです。福祉科では多くの経験ができました。みなさんも卒業時には、すべてが自分自身の力につながっていると実感できるはず。福祉の知識・技術を活かして人の役に立ちたいと思っている人におすすめの学科です。

岡山県立玉島高校

世界にはばたけ玉高生

～ グローバル人材育成プログラム ～

取組等の概要



科学プレゼン研修
科学英語プレゼン研修
英語によるポスター発表

思考力
表現力



英語力

英語の四技能習得
語彙力強化
GTECと英語検定の受験

国際性育成講演会
ベトナム海外研修
多文化ワークショップ
講演会「EUがやってくる」

国際的
視野

異文化
理解力

イングリッシュセミナー
留学生の受入
姉妹校提携
カナダ語学研修
ハワイへの修学旅行



海外研修

H29 カナダ、ベトナム、マレーシア
H30 アメリカ、カナダ、ベトナム、台湾



受入留学生

H29 イタリア、フィンランド、マレーシア
H30 スイス、台湾

岡山県立倉敷鷺羽高校

アメリカ姉妹校交流と長期留学生滞在 日本で唯一の「未来創造科」が育む国際感覚

取組等の概要

■岡山県立高校で唯一
米国カリフォルニア州立高との相互交流

■長期留学生とともに
地域に根ざした国際交流を推進



平成30年3月13日～26日、本校生徒10名がデービス高校に滞在し、生徒宅にホームステイしながら授業に参加。市長の表敬訪問なども行った。



現地の日本語クラスに加わり、日米のポップカルチャーや現地の日本語学校について語り合う生徒達。卒業後、再訪する生徒も多い。生涯の絆となる貴重な経験を積む。

デービス高校生も、鷺羽高校の各授業に参加する。日本語と英語が飛び交う時間となり、笑顔も絶えない。



この春来日したムハマッド・ギファーリーです。インドネシア出身です。バドミントン部で楽しく活動しています。きびだんごと下津井のタコを食べたいです！



食物栄養モデルの先輩が作ってくれた桜餅を頂きました。日本の文化はとても興味深いです。



平成29年度に滞在したエリー・コックフィールドです。ニュージーランドから来ました。はじめは「話せないと何もできない」と痛感しましたが、ここで過ごした一年間で岡山弁もペラペラになりました。私は、日本のみんなの礼儀正しさが大好きです。

平成28年度に滞在した、ハナ・ジャンコベックです。アメリカでは、ジブリ映画を沢山観たり、ワンオクロックを聞いたりして日本語を勉強してきました。念願の日本での生活は、忘れられない思い出で一杯です。ミネソタ州で高校を卒業したら、将来は頑張って日本の大学に入学したいです！ Washu is my second home!!



本校創設以来、姉妹校プログラムにて渡米した生徒は82名、来校したデービス高校生は79名にのぼります。また、ニュージーランドクライストチャーチへの短期留学派遣や、スペインやUAEなど各国の留学生との交流授業を折に触れて実施してきました。この経験を糧に、アメリカやカナダに留学した卒業生や、外国語指導助手として再来日したデービス高校生もいます。心に深く刻まれる、かけがえのない時間を共有できたことが、世界に広がる未来への「絆」を育んでいます。

岡山県立倉敷工業高校

「倉工チャレンジ2019」

資格取得、人づくり、目指せ日本の技術者！

取組等の概要



第二種電気工事士試験（実技）に向けて練習



危険物取扱者試験に向けて生徒同士で教え合い

本校**機械科**および**電子機械科**では、技能検定で技能士の国家資格取得に向けて取り組んでいます。「技能検定」とは、働くうえで身につける、または必要とされる技能の習得レベルを評価する国家検定制度で、試験に合格すると合格証書が交付され、「技能士」と名乗ることができものです。**機械科**では「機械系保全3級」、「普通旋盤3級」、「機械検査3級」や「鋳鉄鋳物鋳造3級」などの取得に、また**電子機械科**では「電気系保全3級」、「シーケンス制御3級」や「機械検査3級」などの取得に取り組んでいます。

電気科では、「第二種電気工事士」・「第一種電気工事士」の取得に意欲的に取り組み、「電気職人を極める」ことに**電気科**全員でチャレンジしています。

また、**工業化学科**では「危険物取扱者」の乙種第4類の取得からスタートして、複数の類の取得を目指し、最終的には乙種全類取得（乙種1類から乙種6類まで）を達成する生徒も多数います、更に高校生では取得の難しい甲種の免状を取得するまでになる生徒もいます。生徒同士で「教え合って学ぶ」というスタンスで有資格の生徒が、これからチャレンジする生徒にポイントを教え、自分自身も成長していきます。更に技能検定については「化学分析3級」や「プラスチック成形3級」についても、取り組んでいます。

ファッション技術科（**テキスタイル工学科**に改変予定）では「AFT色彩検定3級」や地元倉敷の地場産業であるジーンズの着こなしを支える人材となるため、「ジーンズソムリ工資格認定試験」にも取り組んでいます。

岡山県立水島工業高校

本物を目指す！キーワードは「環境」 子どもたちに化学の楽しさを教える環境教育

取組等の概要



小学4年生対象「環境交流学习」
西阿知小・乙島小・旭丘小



BDFプラントを見学する
イオンチアーズの子どもたち



初飛行に挑戦 エアロMECIA
世界初のトライブリッド有人小型飛行機

◎「廃天ぷら油」から「石けん」をつくってみよう！市内3小学校で「環境交流学习」

近隣の小学校3校に工業化学科生徒が出向き、「水を汚さない」「空気を汚さない」など環境に関する交流学习を行います。本校生徒が実験の手順や注意点を説明した後、小学生と一緒にペットボトルを振りながら楽しく石けんづくりを体験します。

また、本校のBDFプラント見学や水素と酸素の化学反応を利用した燃料電池車に体験乗車し、大気環境についても学習します。

◎「廃天ぷら油」から「バイオディーゼル燃料」を生産！全国で唯一のプラント実習

廃天ぷら油からバイオディーゼル燃料（BDF）を生産するプラントが本校工業化学科にあり、多くの小学生を招いて「二酸化炭素を増やさない」環境教育に取り組んでいます。このプラントで生産されたBDFは、校内のグラウンドやテニスコート、外灯などの照明用発電機の燃料として使用する他、地域の催事の照明として発電機とともに貸し出しており、平成30年7月豪雨の際には、停電していた倉敷まきび支援学校の電源供給に活躍しました。

原料として使用する廃天ぷら油は、地元西阿知地区の各家庭をはじめ、旭丘小学校給食室、かわさきこども園、地元飲食店など多くの方々のご協力を得て回収しています。また、興陽高校で作られた菜種油を家庭科の調理実習で使用し、その廃油を原料にBDFを生産する「菜の花プロジェクト」にも取り組んでいます。

◎MECIAプロジェクト

5つの専門科が協力してものづくりに取り組むプロジェクトです。平成15年度の「燃料電池車MECIA」を皮切りに、平成16年度「スーパーMECIA」は高等学校エコカーレース総合大会燃料電池部門第4位、平成17年度「ウルトラMECIA」は同大会燃料電池部門優勝の成績を残しました。同年、本校プラント実習で生産されたBDFを燃料にして走るバイオディーゼル車「BDF MECIA」を製作しました。平成18年度には、福祉車両「ゴールデンMECIA」を製作しました。

そして、平成21年度から7年間の製作期間を経て完成した「エアロMECIA」は、太陽電池、燃料電池、リチウムイオン電池の3種類のエネルギーを搭載した世界初のトライブリッド有人小型飛行機です。

このようにものづくりを体験することで、実践的な技術者を育成しています。

現在も継続して、倉敷リサイクルフェアや、倉敷環境フェスティバル、玉島環境フェスティバル、環境フォーラムin船穂など多くの催事に参加し活躍しています。

岡山県立倉敷商業高校

自ら学び、地元地域への愛着や誇りを持ち、将来、地域に貢献する人材育成を目標とした **商業+α** の教科横断型授業

倉商AAA (3年生の選択講座のひとつで、読み方はトリプルエイ、AAA

は、Amigo Area Attendant (友人のように親しみを込めて地元地域を案内する者)の略 **倉商生が地元の倉敷美観地区を観光客にご案内**

取組等の概要



↑ 平成29年度のガイド実践の様子 ↑

←平成30年度 倉敷市文化財保護課による美観地区まちあるきの様子

： 秋の観光シーズンに倉敷美観地区で観光ガイドをすることを目指して、地域の様々な方のお力を借りながら学習を進め、商業の科目で学習した内容を確認、実践し、英語を使ってみることに挑戦します。

授業回数	取り組み内容 (◆外部講師講義・●フィールドワーク・★ガイド実践)	
1学期 (約10回)	美観地区、観光産業等 知識を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ◆倉敷市役所観光課出前講座『倉敷市の観光について』 ●ウエルカムガイドの方々のガイドを受ける。 ◆ウエルカムガイド講義『観光ガイドに必要とされること』 ●大原美術館にてレジャー・プログラム&作品鑑賞おしゃべりプログラム ◆倉敷市文化財保護課講義『倉敷市内の指定文化財について』 ◆有限会社 くま 代表取締役 辻信行様による特別講義 ●観光客の方々にアンケート実施 ・ガイド内容学習 ・校内で相互に模擬ガイド ・1学期振り返り
(約10回) 2学期	実践に向けて ガイド実践	<ul style="list-style-type: none"> ●美観地区各所見学、情報収集 ●観光客の方々にアンケートを実施 ●美観地区内各所で「コト消費」 ・校内模擬ガイド ・観光客の方へのお礼の粗品製作 ◆倉敷善意通識会 小松原道郎様による特別講義 ★ガイド実践 4回 ・2学期を振り返り、個人レポート作成
(2回) 3学期	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究発表会に向けての準備/リハーサル ・各方面への礼状作成 ・1年間の活動の振り返りと来年度に向けて



【活動内容とねらいのイメージ】

岡山県立玉島商業高校

玉商エボリューション『新たな学び創出』 ～ e-learning systemを活用した スマートフォンによる学び ～

取組等の概要



本校では、平成26年度にiPadを40台揃え活用することで、授業での生徒の学習意欲を喚起し、学力の定着を図るための取組を行いました。平成28・29年度岡山県教育委員会から研究指定を受けスマートフォン（以下、スマホ）・携帯電話を活用した家庭学習の定着と充実、学力向上に取り組む研究を行いました。これは、「『遊びの道具』を『学びの道具』」にというコンセプトで全国的にも珍しく県下初のスマホ・携帯電話を活用した学習の取組です。

具体的には、各教科で教材をデータベース化しクラウドにアップロードし、ICTを活用した授業を行うことで、授業の質的な向上を目指すとともに、生徒の興味・関心を引き出し学習への意欲を喚起することを目標としています。クラウド上に教材があることで、生徒は家庭学習や登下校の合間に、スマホ・携帯電話でクラウドにアクセスすることができ、「いつでも」、「どこでも」主体的に学習できる環境が構築できています。

学習コンテンツは、既存（市販されているソフト等）のものではなく、生徒の実態に合わせて本校で独自に開発したものを主に配信しています。そのコンテンツは①授業の復習（確認）②授業の作品閲覧③小テスト対策④進路対策⑤定期考査対策⑥検定対策⑦学年・HR・部活動の情報発信⑧地域学習に関係するものなどです。例えば、地域学習でフィールドワークを行う際に、地元のケーブルテレビから玉島の歴史や文化、人物などに関する動画を提供してもらい、生徒はクラウドにアップロードされたその動画を視聴しレポートにまとめました。動画から得られる情報を主体的に分析し課題を発見しグループで共有することができ、実際のフィールドワークに活かすことができました。地域との連携をとおして、より深い学びを行うことができた事例です。

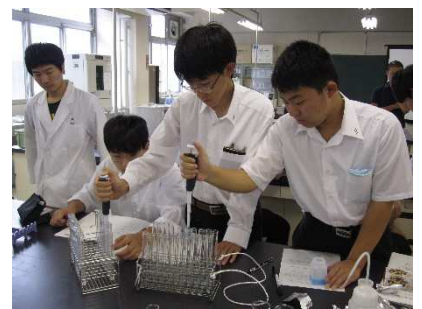
さらに、本年度すべてのHR教室にWi-Fiが設置され、プロジェクタや教材提示装置、iPadなどのICTをフルに活用した授業展開による授業の質をより向上させることができるようになりました。生徒の「学びに向かう好奇心」を喚起し、主体的・対話的で深い学びにより学習効果を上げていくことが、すなわち「玉商エボリューション」です。

岡山県立津山高校

めざせ！トップサイエンティスト！

～ 未来を切り拓く人材の育成 ～

取組等の概要



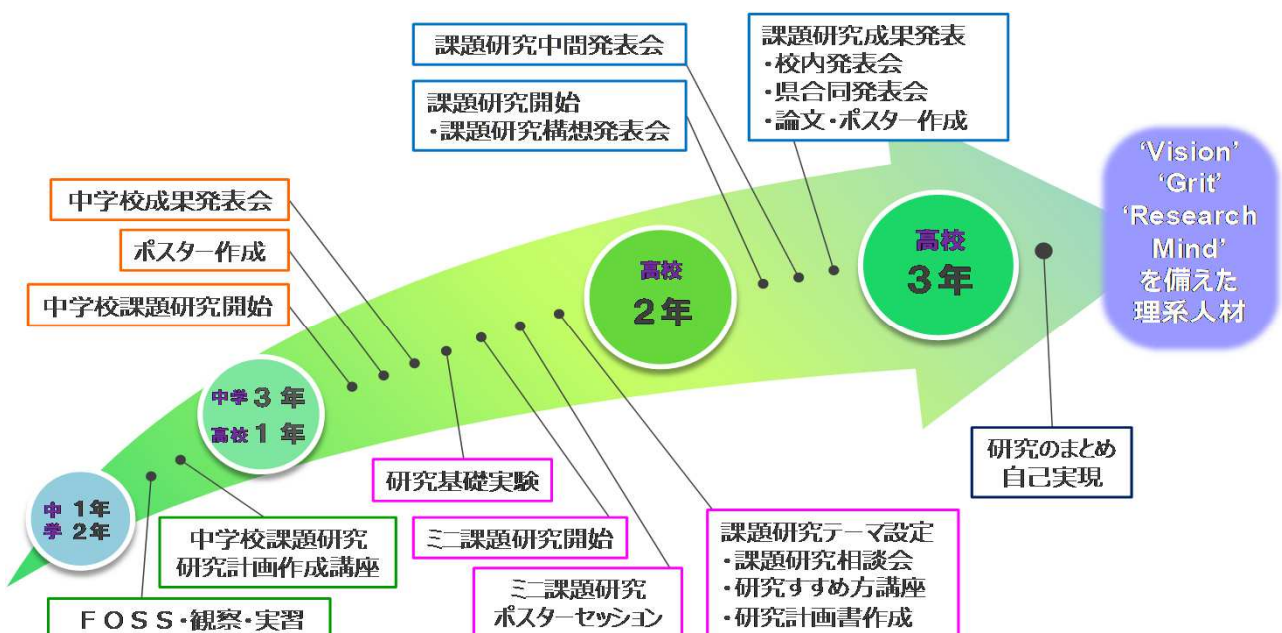
本校は、平成24年度から文部科学省のスーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業の指定を受け、今年度で7年目を迎えています。このSSH事業の支援を最大限活用しながら、“未来を切り拓く人材の育成”を目指しています。

☆ 全国に誇れる取組 ☆

- ① 研究者育成のための学校設定科目実施と研修プログラムの開発
- ② 地域と連携した外部支援と共同研究の取組「津山サイエンスネットワーク」の構築
- ③ 併設型の津山中学を含む6年間を見通した教育環境の充実

☆ 主な成果 ☆

- ① 科学オリンピック入賞（化学グランプリ・物理チャレンジ）
- ② 研究発表入賞（SSH生徒研究発表会奨励賞、日本地球惑星科学連合高校生セッション優秀賞）、中四地区生物三学会（最優秀賞）
- ③ 東京大学・京都大学・医学部医学科への合格者数増加



岡山県立津山東高校

食物調理科

作るぞ！世界にひとつのオリジナルレシピ！

取組等の概要

津山東高・庁さん考案「チーズのバナナ春巻き」



津山東高食物調理科2年 佐藤・スイーツ「郷年の庁有里さん(17)の考案した「豆乳チーズのバナナ春巻き」が「第4回豆乳レシピ甲子園」(日本文学協会主催)のデザイナート・スイーツ部門で最優秀賞に輝いた。全国規模のコンテストで初めてつかんだ栄冠。ホテルのキッチンなど料理関係の仕事に就きたいと将来の夢を描いている。

豆乳に親しみを持ってもらい、消費拡大につなげようとする2014年から毎年開催され、今年はデコと輪切りのバナナと

身近な材料で手軽

緒に包み、油で揚げるだけ「小さなおもちゃでも簡単に作れるように」と、シンプルな調理方法にこだわった。さくっとした皮の食感と、少し酸味のあるチーズと甘いチョコ、バナナの組み合わせが絶妙なバランスを醸し出している。身近な材料で手軽に作れることなどが評価された。

成績は「豆乳の日」の10月12日付で発表された。庁さんは「本当にうれしい。これからいろいろなお菓子や料理に挑戦し、もっと腕を磨きたい」と話している。

庁さんをはじめとした入賞作品のレシピは同協会のホームページで公開されている。(杉本明何)

ザート・スイーツ」の3部門に、46高校から計152点の応募があった。料理研究家が味や調理のしやすさ、オリジナリティなどを審査して部門ごとに最優秀1点、優秀2、3点を選んだ。

デザート・スイーツ部門には、3部門で最多の742点が寄せられた。庁さんの春巻きは、豆乳とレモン汁を混ぜて作った豆乳チーズを、板チョコと輪切りのバナナと

即席麺料理コンテスト

カップ麺をいなりずしと団子入りすまし汁に一。そんな大胆なアイデアで、津山東高(津山市林田)の食物調理科1年森岡優衣さん(16)が、即席麺を活用したメニューの出来栄を競う「第15回インスタントラーメンオリジナル料理コンテスト2017」(日本即席食品工業協会主催)の頂点に立った。(田井香葉子)



カップ麺を用いたいなりずしを手掛けた森岡さん

豆乳レシピ最優秀 森岡さん(東高)頂点

▲栄誉

「食の甲子園」

▼挑戦

↑2017年11月26日山陽新聞朝刊

↑2017年3月24日山陽新聞朝刊

- 授業で学んだ知識と技術と高校生ならではのアイデアで多くの**オリジナルレシピ**を考案します。**全国規模のコンテスト**で数多くの**優勝**、入賞を果たすなど大活躍しています。
- 卒業時に調理師免許状が取得できる**岡山県内**公立高校唯一**の学科です。
- 1年で西洋料理、2年で日本料理、3年で中国料理、製菓、集団調理、接客サービスを学びます。プロの調理師に外部講師として授業をしてもらい、3年間で**食のプロフェッショナル**が育ちます。
- 卒業時にはこんな素晴らしい料理が作れるようになります。

平成29年度
卒業制作展

生徒作品



岡山県立津山工業高校

地域の厄介物への挑戦…竹の有効活用 ～竹は地域の大切な資源だった～

取組等の概要



竹の伐採から運び出しの様子



竹チップを活用した牛舎敷料



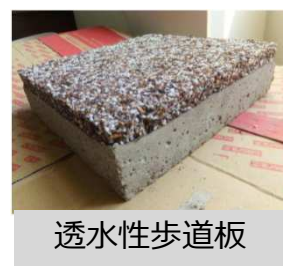
竹粉末



バイオエタノール



吸着剤



透水性歩道板

現在は日本の多くの地域と同様に少子高齢化が進み、特に機械化が難しい畑や田が耕作放棄地になり、雑草が生い茂り、手入れされていない竹林が広がる風景がいたるところで見られます。

平成27年6月に工業化学科の1年生40名が、「地域の山野の状況を知る森林活動」で体験したことから始まり、全7科の取り組みに発展した、竹資源の有効活用の取り組みをみなさんに紹介します。

平成27年には、岡山県農林水産総合センター森林研究所の協力で、27年12月に7学科の代表1年生21名が、勝間田高校所有の竹林の現状を見学し、その後竹炭作りを体験した。また出前授業などの生徒達の地道な取組により、竹林の整備事業も地域の理解が得られるようになり、近隣の竹林所有者の協力を得ることができるようになりました。

この体験活動がスタートであるが、美作・津山地域を様々な視点からもう一度見てみると、B級グルメ「津山ホルモンうどん」「蒜山やきそば」でも有名な食肉の産地であり、畜産農家も多いことがわかりました。そこで、微粉碎した竹チップを利用した牛舎敷料と使用済みの敷料を土質改良材として再利用することの研究に取り組み、地域から大きな反響を頂いた。この取り組みは「2016高校生テクノフォーラム」で最優秀賞を頂きました。

現在は、より広い分野へも活用を模索している段階であり、様々なデータを取り科学的に研究を進めつつあります。

また今年8月19日に地域活性化イベントとして鶴山公園で開催された「津山城跡で竹水鉄砲楽しもう」での竹水鉄砲の製作依頼があるなど、取組の幅も広がっています。

岡山県立津山商業高校

地域で学び 地域で育つ 地域とともに歩んだ10年 販売実習 「津商モール」

取組等の概要



笑顔忘れず一生懸命 商品PR



小学生もAIロボットと一緒に



笑顔忘れず一生懸命 商品PR

これからの時代に地域の企業が求める知識・技術・ビジネスマナー・起業家精神などを学び、商業高校の学びを最大限に発揮する機会として、全校を挙げての販売実習「津商モール」を実施しています。

平成21年度にスタートした「津商モール」も平成30年で10回目の節目を迎え、定番商品の販売だけでなく「津商モール」初登場の商品を加え、日ごろの感謝を含めて、精一杯のおもてなしを行います。また、今年度も近隣の中学生にも呼びかけ、体験入店してもらい、ビジネス経験を積んでもらおうと計画しています。

小学生に対しては、津山商工会議所青年部との共催事業である「キッズビジネスタウンつやま2018」を同時開催し、職業について楽しみながら学ぶ機会を用意しています。

その他イベントも企画しており、小学生から大人まで楽しめる津山地域の冬の風物詩として定着しつつあります。

平成30年度の「津商モール」のテーマは次の通りです。

届けます。“ありが10(とう)”の感謝をこめて

～10(じゅう)実のおもてなしを見にき10(てん)～

岡山県立玉野高校

なぜだろう？ なぜかしら？ 今年の目玉はGRC！

取組等の概要



(株リバネス社による技術講習 (6月9日・本校))



第33回全国大会 (10月20日・JAXA)



試験発射 (6月9日・本校)

本校では、平成27年度から3年間、「中高生の科学研究実践活動推進プログラム」の研究指定を受け、周辺校や地域の中学校を巻き込んだ研究活動を実践してきました。

理系の生徒を中心に、昨年度は次のようなテーマで研究や開発を行いました。

- ・ 備前焼における胡麻と緋襷の形成過程に関する研究
- ・ 酸化物高温超伝導体の短時間合成方法の開発
- ・ タンポポの綿毛の構造と再現に関する研究
- ・ チリメンモンスターから見た海の環境 2017
- ・ LMガイドを用いたX-Y黒板消しロボットの開発

また、これらの成果を、「集まれ！科学への挑戦者」「理数科理数系コース合同発表会」「中四国金属学会」「サイエンスアゴラ」「サイエンスキャッスル」「日本植物学会」「日本物理学会」「核融合・プラズマ学会」「化学グランドコンテスト」等で発表してきました。

身の回りのちょっとした疑問や不便さから出発して、自主的な研究を重ね、他者に分かりやすく伝えることを何よりも大切にしている。今年の研究の目玉は！

Girls' Rocketry Challenge(略して「GRC」) です。

これは、女子中高生の手でモデルロケットの開発と打ち上げを行うもので、最高到達高度を競う「高度競技」、パラシュートを開いて滞空時間を競う「パラシュート滞空時間競技」、指定された範囲内に落下させる「パイロード定点着地競技」の3つの部門があります。本校生徒6人と近隣の中学生3名が合同で研究開発を進め、先頃、JAXA(茨城県つくば市)で開催された第33回全国大会に出場しました。

ここに至るまで、「挙動が安定しない!」「パラシュートが開かない!」「(パイロード競技で使う)プラスチックカプセルが分離しない!」など、それぞれの競技で様々な試練に見舞われました。疑問点や問題点を解決するために、翼面積を微妙に広げたり、パラシュートの素材を変更したりの試行錯誤を繰り返しました。また、ノーズコーン(ロケットの先端)は、高度等に大きな影響を与えるため、3Dプリンタを用いて理想的な形状が得られるように工夫しました。

12月には、大阪で開かれる「サイエンスキャッスル」で、この取組について発表を予定しています。

岡山県立玉野光南高校

高校生が教える

「プログラミング体験教室」

(小学5・6年生対象)

取組等の概要



高校生が小学生に体験させる内容を企画し、当日の運営・授業までを一貫して行います。

◆企画

まずは高校生がScratchの勉強会。小学生に楽しんでプログラミングができるように企画を練ります。

今回は簡単なゲームを作成させることで、プログラムと手順の大切さを体験させます。

◆広報活動

開催日が決定したらフライヤー（チラシ）を作成し、小学校に持って行き説明をします。

◆マニュアル（手順書）の作成

授業を行うためのマニュアルを作成します。誰が、いつ見ても分かるように作成します。小学生に対しては補助プリントを作成します。

◆先進校視察

島根県立情報科学高等学校は小中学生に対して多くの講座を設けています。

7月21日に講座が開催されているので、モチベーションの向上のため視察に行きました。

◆授業練習

先に作成しているマニュアルも元に、小学生に分かるように何度も練習を重ねました。

◆「プログラミング体験教室」の開催（8月25日）

車の誘導・受付・パソコンの準備などをこなし、授業を行いました。体験授業時は先生役は1名、パソコン操作1名、補助員3名で行いました。

◆アンケート集計

次回の体験教室のためアンケート調査を行い、次につなげるよう集計を行いました。

次回は12月15日(土)開催予定

岡山県立笠岡高校

ACTで拓く私と社会の未来

～総合的な学習の時間（ACT）

の学びで自分や社会が見えてくる！～

取組等の概要

ACTの学びは、グローバル社会を生きる「未来開拓力」を育みます。

- 1年次「自分を知り、社会を知る」

地域学…笠岡(ローカル)を考える

地域の課題を発見、探究し、笠岡市に提案します。
笠岡市の全面バックアップ！福山市立大学とも連携！

キャリア探究…高校入学講座,大学リサーチ,広島大学訪問,企業訪問

- 2年次「自分と社会との関わりを考える」

テーマ探究…笠岡から世界(グローバル)を考える

自ら問いや仮説を立て、研究を通して考察し、論文を作成します。自分の興味・関心に応じた研究ができます。

キャリア探究…キャリア研修,大学出張セミナー,大学・学部・学科リサーチ
学びの計画書作成



Students' VOICE

【地域学での取り組み】

「私たちの提案で笠岡市に変化が！」

都市計画課の課題「駅前のにぎわい創出」に対して、駅前イルミネーションの設置を提案をしました。後日、笠岡市から実現に向けての動きがありました。

さらに、駅前商店街「カフェモヨウ」のキムさんから、笠岡市内4高校で駅前イルミネーションの競演をしようとの提案があり、現在月に1度集まって、企画

を進めています。実施は12月15日～1月14日の予定。ぜひ見に来てください！



【テーマ探究での取り組み】

「大学でインタビューしました☆」

私は「グローバル化が進んでいく世界で英語を学ぶ意義は何か」というテーマで探究活動をしています。

テーマ探究講演会でお世話になった清心女子大学の先生を通じて、英語英文学科の学生と、英語を学ぶ楽しさや、自動翻訳機の存在についてどう思うか、など様々な意見を聞くことができました。

今後は英語を学ぶ楽しさを伝えられるような論文を作成しようと考えています。

今、普通科だからこそ、自分と社会をじっくり考える時間が必要です。

「ACT」はそれができる、オンリーワンのキャリア教育プログラムです！！

岡山県立笠岡工業高校

【環境土木科】 県内初 全国でも珍しい

授業でのドローン測量

取組等の概要

ドローン測量についての最先端の知識・技術を身につけ、安全な運用ができる技術者を育成します。

3年生の「実習」「課題研究」で学ぶことができます。

授業の内容は、以下の通りです。

【実習】

- ①形式：環境土木科3年1クラスを5つの班に分け、班別に期間を変えて実施します。
- ②時間：週3時間で4週間にわたって取り組みます。
- ③内容：1週目 ドローンについての基礎知識と関連法規などを学びます。
2週目 ドローンの操縦法などを学び、操縦練習を行います。
3週目 ドローンによる測量を行います。
4週目 高性能パソコンでデータ処理し、3D図面などを作成します。

【課題研究】

- ①形式：「ドローン測量」を選択したグループで実施します。
- ②時間：週3時間、1年間を通して取り組みます。
- ③内容：
 - ・操縦練習を繰り返し行い、技術の向上を目指します。
 - ・専門性を高め、国土交通省による飛行許可書を取得します。
 - ・飛行許可を得た校外の場所で、ドローン測量を行います。
 - ・ドローンについての知識を深め、ドローン検定3級の取得を目指します。



岡山県立笠岡商業高校

笠SHOP

取組等の概要



「笠SHOP」とは3年生の授業「課題研究」の講座のひとつでいまや笠商ブランドともいえるものである。笠岡ブランドを最大限に生かした商品開発チームと、笠岡諸島の観光ツアーの企画・実施をする観光チームに分かれて活動しています。

商品開発チーム（毎年スタッフ15名程度）は、笠岡ブランド牛瀬戸の姫の「牛串」を始め、瀬戸の姫の牛肉、Y&Gディストリビューターのフリルレタス、アサムラサキのゴマゆずドレッシングなど地元食材を用いて富士製菓さんと共同開発した「せとぷりバーガー」や地元の工房と開発したクッキーである「ごぼこち」など、食材とネーミングにこだわった商品を開発し、校内のみならず地域のイベント等で不定期に販売しています。

観光チーム（毎年スタッフ15名程度）は、平成28年度から笠岡諸島を中心に、笠岡の名所を巡るツアーを計画しており、「笠岡市」や「かさおかブランド協議会」に協力をいただきながら実施しています。平成28年度は、「寒さもぶっとび～¥4,010（ほっと）ツアー」で3コース実施、平成29年度は、「そうだ! 島へ行こう!」で2コース実施、平成30年度も3コースで実施する予定です。毎年、1コース15名程度の参加があります。

どちらのチームも地域と連携して、地域の方の協力を得ながら取り組んでおり、地域の人たちには大変好評です。また、多くの人たちと関わることによって、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、責任感などを身につけることができ、わが校自慢の取り組みです。

岡山県立井原高校

「井原高校ふれ愛まつり」 & 「井原の鬼まつり」 高校生が地域の伝統・文化の継承に貢献するコラボ企画！

取組等の概要



江戸時代から伝わる「井原の鬼まつり」。

井原市井原町で開催される秋のイベント。別名「鬼まつり」。華やかな衣装をまとった約150人の鬼たちが、神社までの約2 kmの道のりを練り歩く。地元4神社の御神幸の先払いとして始まったこのパレードに、井原高校生たちが「絵ぶた・帆」を載せた山車の引き手や強面の「鬼」として参加しています。この「絵ぶた・帆」もまちづくりの方々からの要請を受けて、井原高校生たちが修復しリニューアルしたもの。「鬼まつり」を通して、地域の伝統・文化が高校生たちに継承され、高校生たちのパワーが「鬼まつり」に活気を与えています。

同日開催されているのは、学校行事である「井原高校 ふれ愛まつり」。昨年度から会場を南校地に移したが、園芸科の生徒達が育てた農産物、家政科の生徒達が作成した井原デニム製品やおこわ、焼き菓子などの販売だけでなく、PTAのバザーや生徒会を中心としたステージやゲームコーナーなど、子どもからお年寄りまでが楽しめる企画がいっぱい。この「ふれ愛まつり」を楽しみに会場に足を運ぶお客さんも多く、「鬼まつり」と融合して盛り上がりを見せています。「鬼まつりの日にあわせて、子どもや孫たちが帰ってきてくれるようになった。」という声も増えています。

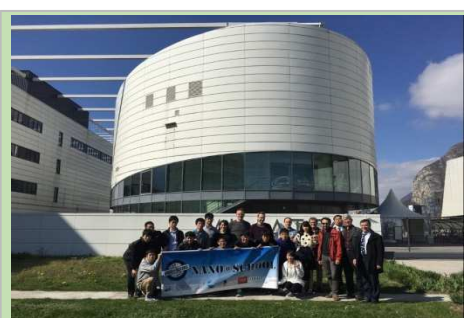
取組の経緯

井原町は井原市の中心商店街としてかつては大いに賑わい、「鬼まつり」も盛大に行われていました。しかし、人口減少や少子高齢化のなかで、まつりへの参加者も減少の一途をたどり、かつての賑わいを失った「鬼まつり」は存続が危ぶまれるようになりました。主催する「井原町まちづくり会」をはじめ、地域の活性化を願う人々から高校生のパワーでまつりに再び活気を呼び込んでほしいとの要請があり、井原高校は、平成22年から取組を始めました。井原高校が手がけたのは、鬼や「山車」の引き手となってパレードに参加すること、老朽化して傷んでいた「絵ぶた」や「山車の帆」を修繕し、山車を華やかに彩ること、会場でバザーやアトラクションを実施し集客を図ることの三つ。そのために、かつて11月に校内で実施していた「地域ふれあいデー」をリニューアルし、「井原高校 ふれ愛まつり」として井原市総合福祉センター周辺を会場として同日開催することにしました。現在、10月第4週の日曜日に開催される「井原高校ふれ愛まつり&鬼まつり」は、高校生にとっても地域住民にとっても地域の伝統・文化を感じることでできる秋のイベントとして、定着しています。

岡山県立総社高校

大学や研究機関と連携した サイエンス部の課題研究

取組等の概要



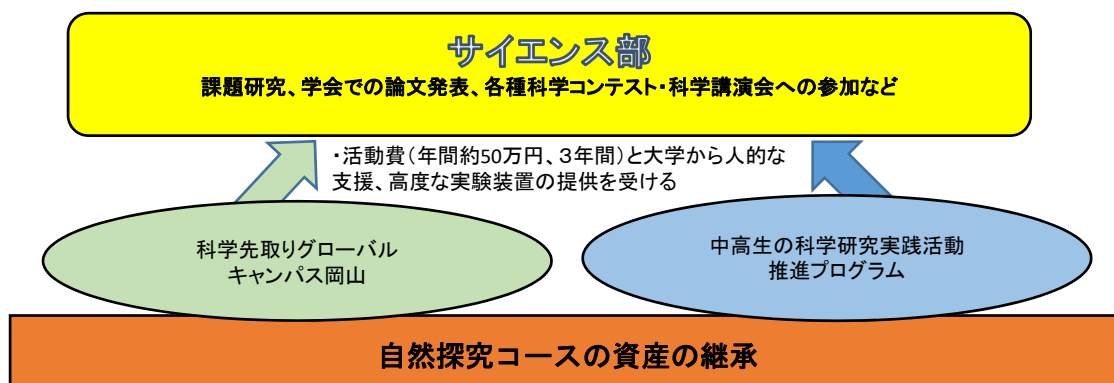
フランス海外研修(部員1名参加)



日本学生科学賞の授賞式
(後列左から2番目)



「サイエンスチャレンジ岡山」の工学部門(3位H15,17)で匠賞(H16)を受賞した作品を作成している様子



本校のサイエンス部は、自然探究コースで培われた課題研究などに関するノウハウを受け継いでいます。課題研究を全国レベルに高める目的で、「科学先取りグローバルキャンパス岡山(岡山大学主催)」と「中高生の科学研究実践活動推進プログラム(JST主催)」からの支援を受けて、活動費(年間約50万円、3年間)をはじめ、大学から人的な支援と高度な実験装置が提供されました。このことで授業とは異なった研究を放課後毎日行っていくことが可能です。課題研究はもちろん、学会での論文発表、各種科学コンテスト・科学講演会などに積極的に参加しています。自慢の研究装置は、鉛ブロック10個で囲まれた空間に試料とシンチレーションカウンターを設置した「 γ 線スペクトル測定装置」と「携帯用小型熱画像カメラ」です。

今後は、ウランが産出する岡山県の地の利を生かした自然放射線や放射能除去などの研究を行ったり、熱画像カメラを用いたスターリングエンジンに関する研究、豪雨災害における防災に関する研究、ゴムの弾性に関する研究に取り組んだりして、生物分野と物理分野を扱った学際的な研究など、さまざまなテーマの研究に挑戦していきます。

岡山県立総社南高校

「地域の方々に愛されて」

～ 学んだことを生かして積極的に地域貢献を ～

取組等の概要

総社市社会福祉協議会や市内14地区で40を超える団体と事業連携を行っています。本校の美術工芸系・国際系等のコースで培った力を地域に生かし、地域貢献を題材に探究活動で力を培います。



夏休みに希望する近隣中学校の生徒に本校生徒が絵画・彫塑の指導を行います。

近隣の小学校・中学校の授業・イベントに参加して英語などの指導を行います。



美工



国際



探究活動



社会貢献

社会貢献活動の報告や活動を通じて学んだ地域の課題とその解決策について発表しています。総合的な学習「未来探究」で年間を通じてより良い地域の在り方や自身のキャリアについて考えます。

平成30年7月の西日本豪雨では災害ボランティアに積極的に参加し、その割合は7割を超えました。それ以外でも従前から地域の行事や小中学校の学習支援などの多くの体験をしています。

岡山県立高梁高校

姉妹校交流30年

～差異の先にある人間交流～

取組等の概要



本校は、平成3年2月に、南オーストラリア州のアデレードにあるノーウッド・モリアルタ高校と姉妹校協定を結び、以来、隔年で相互訪問を行っています。現在まで両校から500名を超える生徒・職員がこのプログラムに参加し、両校間の友好・親善、また、異文化理解・国際的視野の拡大などを図り、国際理解教育を推進しています。

2週間程度の短期訪問・短期受入では、学校生活や校外研修およびホームステイ生活などを通して、言葉を超えた交流を深め、友情の輪を広げています。短期訪問を通じ、生徒の英語力向上はもちろん、オーストラリアという多民族、多文化環境に身を置くことで、生徒たちは自分たちの視野が派遣前より広がったという実感を持っています。

平成11年度には両校間で新たに長期交換留学制度を締結し、平成12年度から年に1名程度の留学生を交換することにしましたが、平成21年初めに南オーストラリア州の交換留学規定が変更になったことを機に長期留学を取りやめ、代わりに夏季留学(7月半ば～9月末)を開始しました。本校から生徒を派遣する場合は、“Foundation Course”と呼ばれる、移住して間もない生徒を主に対象とした英語集中プログラムに参加し、英語力の向上が見られる場合には、現地の生徒と同じ授業を受けています。また本校に生徒を迎え入れる場合は、彼らに対し英語科のみならず、他教科の教員も日本語の授業を担当しています。これは学校生活だけではなく、日本の日常生活に対応する日本語力を身につけさせることを目標としていますが、指導担当者の個性や教科特性が大いに反映されたプログラムになっています。

現在、姉妹校協定締結30周年を前に、協定内容の改訂作業を両校の担当者を中心に行っています。改訂には、ノーウッド・モリアルタ高校がホストとなって推進する、“Global Summit”への高梁高等学校からの参加や、両校教職員の現地視察や体験授業を含める計画も提案されています。

また、高梁市はフランス・リヨン市のアンペール高校と今年新たに教育交流協定を締結しました。この教育交流協定は、英語圏以外の国との交流を通して、高梁市内の高校生に幅広い国際感覚を身につけてもらうことを目的としています。今後、高梁高校ではアンペール高校生の受入準備等を進めていき、国際交流・異文化理解を一層充実したものにしていける予定です。

岡山県立高梁城南高校

地域の生産物を利用した 商品協働開発と商品販売

取組等の概要



○お城カフェ・城南カフェ、城南マーケットの開催（本年度の取組）

[事業内容]

本校が今までに高梁市の特産品や本校農産物を用いて地元の事業者と「協働」開発した商品を広く市民や観光客にPRするために、備中松山城や本校交流温室等でのカフェの開催と販売を行いました。

この取組により、生徒のコミュニケーション能力の伸長、城南プライドの高揚に加えて、地元の自治体や観光協会との連携を通じた、高梁市の観光地を自ら盛り上げる意識の醸成につながりました。

- ・〈お城カフェ〉 5月2日(水) 10:00~12:00(環境科学科)
10月5日(金) 10:00~12:00(環境科学科)
ケーキセット300円×60セット(高梁紅茶と黒米ロールケーキor大麦シフォン)
- ・〈城南マーケット〉 5月2日(水) 10:00~12:00(環境科学科)
黒米ロールケーキ、大麦シフォン、おからパン、観光弁当、杓付ヒラタケ、花の苗
- ・PTA総会の5月12日(土) 9:00~10:30
〈城南カフェ〉(環境科学科) 〈城南マーケット〉(総合情報科)を保護者向けに開催。

○高梁市の「観光弁当」の開発（昨年の取組）

- ①地域の理解を深める。…「高梁学」の開講。
 - ・高梁市役所産業観光課の方に来校してもらい、高梁市の産業・農業・観光地について説明していただく。1年生全員6月(2・3年生は前年度までに全員受講済み)
- ②地元へ高梁ブランドを提案。…「観光弁当」の開発。
 - ・おぐる鮮魚店(巨瀬町)さんとの観光弁当共同開発。(環境科学科)
 - ・観光地での市場調査。(総合情報科) お礼としてデザイン科製作の葉書をプレゼント。
 - ・弁当パッケージのデザイン開発。(デザイン科)
 - ・ミニデイサービス昼食調理ボランティア(環境科学科)
 - ・独居高齢者の方のご自宅に電球等の交換(電気科)
- ③観光客誘致活動の実践
 - ・地元商店街での各種イベントへの参加と、各科の取組紹介や販売。
 - ・松山城城見橋公園での販売。

○大麦を用いた商品の開発（2年前の取組・環境科学科）

- ・宇治雑穀研究会が生産された大麦を用いて、大麦シフォンケーキの開発。
(パティスリー・シャロンさんで製造)

○黒米を用いた商品の開発（3年前の取組・環境科学科）

- ・黒米ロールケーキの開発。(みるく舎さんで製造、常時販売)

○高校生が開発した商品の販売

- ・じょうなんティーレーヌ・じょうなんタルト(パティスリー・シャロンさんで製造・総合情報科)
- ・おからパン4種(パンドミさんで製造)・ホワイトヒラタケ(環境科学科)

岡山県立新見高校

専門3科の強みを活かした 校内6次産業 & 各科の特色を活かした 社会貢献活動

取組等の概要



【親子ピザづくり体験】



【わくわく産業ランド2017 in にいみ】



【ドキドキショッパーズ】

本校は岡山県北西部の新見市における唯一の県立高校であり、普通科、生物生産科、工業技術科、総合ビジネス科を設置しています。今後10年間で児童・生徒が急激に減少する新見市において魅力ある学校づくりは喫緊の課題であり、地域に必要とされる学校、地域とともにある学校、地域発展の核となる学校を目標に生徒教員が一団となって日々学習活動に取り組んでいます。

○**親子ピザづくり体験**：各専門科の特色を生かし食材の提供、ピザづくりの指導、石窯でピザ焼きなど3科生徒が協働して親子で新高オリジナルピザの試食体験会を実施しました。

○**ドキドキショッパーズ**：総合ビジネス科の販売会において総合ビジネス科生徒が、工業技術科製作のLED装飾品、千屋牛ペーパーナイフなど商品の展示の考案、商品説明、商品アンケートの実施をし、商品の改善、販売に向けた調査を行います。

○**わくわく産業ランド2017inにいみ**：生物生産科生徒がクリスマスリース、工業技術科生徒が光ファイバを使用した電子回路の作り方を指導して、光ファイバ装飾のクリスマスリースの製作体験を実施しました。

○**LED水耕栽培施設の改良・増設**：生物生産科生徒の改良案を受けて工業技術科生徒がLED照明の改良、水槽の増設、暗幕の設置をしました。

○**オープンスクールでのピザづくり体験・先輩との座談会**：3科の生徒が科説明や実習体験の案内をし、ピザづくりの指導、その後、会食をしながら座談会を実施しました。

「科の強みを活かした社会貢献活動」

○**高齢者農家での農作業援助、「千屋牛碁盤乗り」による新見市のPR**：生物生産科生徒がリンドウやピオーネ農家での農作業支援の実施や地域行事へ出向いて「千屋牛碁盤乗り」を披露しました。

○**小学校での出前授業**：生物生産科の花植えや稲刈り体験、総合ビジネス科のワープロや珠算授業、工業技術科のものづくり体験、プログラミング授業など科の専門を生かした生徒による授業を実践しました。

岡山県立備前緑陽高校

備前緑陽の備前焼

取組等の概要



「ろくろ成形」の様子



窯焚きの様子



窯の中の様子



窯出された作品

地域の伝統文化を継承することを目指して、授業や部活動で「備前焼」に取り組んでいます。

■ 授業

- ・ 学校設定科目として、1年次で「備前焼研究α」、2年次で「備前焼研究β」、3年次で「備前焼研究γ」をそれぞれ開講しています。
- ・ 1年次の「備前焼研究α」では、備前焼の基礎学習として、「手造り」を中心にろくろ以外の成形法について学習しています。
- ・ 2年次の「備前焼研究β」では、「ろくろ成形」を中心とした実技の基礎学習で「湯飲み」や「茶碗」から始めて「花瓶」までの実技学習を行っています。
- ・ 3年次の「備前焼研究γ」では、「ろくろ成形」の初級から中級として、「湯飲み」や「茶碗」に始まり、「花瓶」や「徳利」などの作品成形を学習しています。
- ・ また、学校設定科目として「陶芸の歴史と文化」を開講し、備前焼に限らず、日本の焼き物の歴史や西洋と東洋の焼き物の歴史について学習しています。

■ 陶芸部

- ・ 毎週火曜と木曜に活動しています。
- ・ 最初は上手く作れず苦戦しますが、練習を重ねて、「徳利」や「置物」といった難しい作品にも挑戦しています。
- ・ 毎年2月頃の窯焚きを経て、できあがった作品は翌年度の文化祭で展示・販売を行っています。

岡山県立邑久高校

地域で学ぶ邑久高校 「セトリー」 ハンセン病について聞き、学び、伝える

取組等の概要



本校では、1・2年次生のうち、国公立進学コースの生徒約100名が、学校のある瀬戸内市をフィールドとして、「地域学」に取り組んでいます。瀬戸内市に唯一の高等学校として、地域の魅力と課題を発見し、地域に提言することで地域活性化に貢献することを目標に、進路分野に沿った課題研究に取り組むことで、生徒自身の主体性・思考力・表現力・コミュニケーション能力・進路意識といった力を向上させることをねらいとしています。

1年次では、課題研究に取り組む上での基礎を養成し、地域学入門を学ぶ。その上で、2年次では、自分の希望する進路分野に沿って、8分野のグループに分かれて研究テーマを設定し、地域の施設・企業・NPO・人と連携しながら、フィールドワーク、聞き取り、調査研究を進めていきます。

8分野のグループの内の一つである〈福祉グループ〉では、邑久高校のある瀬戸内市にハンセン病の国立療養所長島愛生園と邑久光明園があり、長島愛生園内にはかつて国内唯一の療養所内の高等学校である岡山県立邑久高校新良田教室を邑久高校の歴史の中で持つことから、ハンセン病の歴史を学び、後世に広く伝えていくことを邑久高校の使命として、「後世に伝えよう、邑久高の歴史と瀬戸内市の誇り」というテーマで研究しています。これまでに両療養所の訪問見学、元ハンセン病患者の方、新良田教室に在籍していた生徒や教員の方々から、当時の様子を実際に聞き、考えを深めています。学び考えたことについては、新聞への投書を行う、地元瀬戸内市共催のハンセン病シンポジウムでパネラーの一人として発言する、あるいは総合司会者として会全体を進行する、名誉回復の日には校内放送で全校生徒に呼びかけるなど、校内外に広く発信しています。シンポジウムでは、また、その様子は新聞やテレビに取材され、これまでに30回以上、新聞・テレビで紹介され、広く反響を呼んでいます。

生徒には、地域、学校の歴史としてハンセン病について知るとともに、この負の歴史から差別を見逃さない視点を養ってもらいたいと考えています。少しでも多くの人にハンセン病について伝えるとともに、これからの差別のない社会づくりに貢献できるよう、今後も長く研究を引き継いでいきたいと考えています。

岡山県立勝山高校

持続可能な地域社会づくりの担い手の育成 「バイオマス産業都市真庭」で再生可能エネルギーを探究

取組等の概要



勝山高等学校が所在する真庭市は、豊富な森林資源を生かしたバイオマス発電所やCLTの利活用など、持続可能な地域社会づくりで全国最先端の取組を行っています。勝山高等学校では、そうした真庭市の取組について学ぶとともに、将来その取組に参加していったり、新たな取組を創造できる人材を育成するため、「夢現プロジェクト（総合的な学習の時間）」を核に、地域課題探究型の学習を行っています。普通科・ビジネス科共に取り組む、オンリーワンの事業です。

〔具体的な取組〕

- ・バイオマスツアーの実施
- ・真庭市林業・バイオマス産業課職員による講義
- ・再生可能エネルギー利活用に関する真庭市への提言

岡山県立真庭高校

地域防災活動 **こちら高校市民課防災係** (通称：こち防)

取組等の概要



防災教育先進校交流研修



「こち防」地域防災校内
リーダー研修会



地域合同防災訓練(H29)

平成23年東日本大震災のあと「ヒトツナギ・お見米プロジェクト」として久世校地の生徒が育てたお米に真庭市民からの応援メッセージを添えて生徒が直接被災地を訪ね、真庭市民と被災者の心を繋ぎ被災者に元気を届ける取組をきっかけとして高校生が中心となって地域防災に取り組む活動を始めました。

現在は、防災意識を高めるとともに防災についての知識を学び、リーダーとしての自覚や地域に貢献できる実践力、態度を身につけることを目的に取り組んでいます。

【平成30年度の取組】

① 防災教育先進校兵庫県立舞子高等学校交流研修 6/8 (金)

高校生が主体となる地域連携について理解を深め、環境防災科の展示見学や防災をテーマに意見交換を行いました。

② 高校生「地域防災ボランティアリーダー」養成研修会 7/27 (金)

③ 「こち防」地域防災校内リーダー研修会 8/27 (月)

11月の「地域合同防災訓練」の実施に向けて、上記②の伝達講習、地震のメカニズムと地震危険度マップの考え方についての講演、訓練体験ブースの演習・企画・準備を行いました。

④ 「地域合同防災訓練」 11/13 (火)

本校こち防委員会が企画、運営し、本校生徒・職員、落合小学校全校児童、地域住民、真庭市、真庭消防署が参加し、避難訓練、校内防災訓練、落合小学校への避難補助員派遣と避難誘導補助、防災実験、段ボールトイレの作成指導を行います。

⑤ 木山小学校5年生PTA活動 11/22 (木)

ハイゼックスによる炊き出し訓練の指導に生徒・教員が参加します。

岡山県立林野高校

Chromebook

中山間地域の高等学校における固有の教育課題を解決するICT機器の活用について

取組等の概要



【経緯】2017年3月、さらなるICT機器の利活用を進めるために、岡山県教育委員会、美作市、明治大学の協力のもと、Googleが開発した教育に特化したシステムG Suite for Educationの実証実験に参加しました。半年の効果検証を踏まえ、10月から1年次生がノート型PC「Chromebook」を一人1台所有して、G Suite for Educationを教育活動全般で活用する取組を開始しました。

【取組のねらいと取組状況】次の6点を中心に取組を推進しています。

- ①敷地内をカバーしたWi-Fi環境の中、インターネットに接続して、わからないことをすぐに調べられるなど学習効率や学習意欲の向上が期待でき、家庭での学習時間増加も見込めます。さらに、eポートフォリオに随時入力でき、進路学習に使用しています。
- ②システムが持つ共同編集機能を使って、複数の生徒たちで文章や表計算、プレゼンテーションを作成できます。リアルな対話と組み合わせると、お互いに思考していることが可視化できます。さらに、時間軸でその作成過程が確認できるため、教師の評価が行いやすくなります。
- ③Chromebookが人間の発音を聞き取り、英語で表記する機能を使って、英語のスピーキング能力の向上が期待できます。新学習指導要領で英語の4技能が重視されるなかで、さらなる教授法の研究が期待できます。
- ④Classroomアプリを使って、個々の生徒に対して、文字や画像、音声での課題や補足資料を配信して、より細やかな指導が期待できます。定期テストの解説や授業の前後の課題を与える実践を進めています。また、7月の豪雨災害で、交通機関の影響で登校出来なくなった生徒に対して授業をビデオで撮影して家庭に配信するなど、今後、様々な可能性が期待できます。
- ⑤Formsアプリを用いて、文字や画像、音声でのWebテストが可能になり、授業の最後のミニテストによって、授業のねらいがどう達成されたかを確認することができます。また、学期毎の授業評価アンケートや年に一度の学校自己評価アンケートにも威力を発揮します。さらに、7月の豪雨災害では、生徒の安否確認にも使用され、より具体的で、迅速な対応が可能になりました。
- ⑥様々なファイルが共有できることから、職員の業務改善にも効果を発揮しています。実際、毎日の連絡票や職員会議資料は電子化・共有化が図られ、担当教員の負担減とともに資源の節約になっています。また、前述のFormsアプリで、教職員への各種調査は格段に速くなり、時間の余裕が生まれつつあります。

以上のように、塾や公共図書館・美術館のような施設がなくても、新たな教授方法や教材の開発、世界中と繋がる仕組を構築して、確かな学力の定着を目指しています。また、クラウドを活用しての教職員の業務効率化を推進しています。

岡山県立鴨方高校

あさくち山環学プロジェクト

取組等の概要



「A S福祉・生活系列」
手話講座



「A S自然科学系列」
水質検査



「麺まつり」
ボランティア

1 地域創生学 科目「A S（あさくち山環学）系列」の実施

「おかやま創生高校パワーアップ事業」の指定を受け、本校は新カリキュラムの開発に着手しました。2年間の準備期間を経て、3年目となる今年度、3年生全員が履修する科目「A S系列」を開講しました。従来の課題研究に、「地域活性化」というテーマのもと、地域に根ざした活動を取り入れ、系列別に専門性を加えて指導していく新科目として独自に設定しました。

〈「A S系列」の具体的な内容〉

- A S人文社会：浅口市内の歴史・地理、信仰の掘り起こし等を行い、地域について学ぶ。
- A S福祉・生活：地元の小中高連携のボランティア活動や、市内の特産品開発を企画する。
- A S芸術：浅口市をPRするポスター等を作り、芸術を通じた小中高連携活動を企画する。
- A Sビジネス・情報：浅口市の特産品等を利用した新しいビジネスプランを考える。
- A S自然科学：遙照山山系の水質調査を行い、水資源の大切さについて学ぶ。

また、次のような流れで年間指導計画を作成し、調査・研究を進めています。

- ①地域の施設訪問や座学により浅口市の課題を把握する。
- ②各自テーマを設定して課題解決や地域活性化のための方策を探る。
- ③ボランティア活動等を通じて地域に貢献する。
- ④実践した内容を成果報告・地域へ提案する。

2 地域のボランティア活動への積極的参加

従来から本校では地域へのボランティア参加が活発でしたが、さらに「ボランティア同好会」を新設し、全教員を顧問として引率がしやすいようにしました。平成29年度のボランティア参加人数はのべ1,000人を超える数となりました。生徒が単なる労働力として参加するだけではなく、企画段階から活動に参加できるよう、本校教員と地域の方々の連携を図っています。

また、平成28年度から「地域連携会議」を開き、地域連携委員（19名）との協力体制を整えました。

岡山県立和気閑谷高校

地域に根ざし世界に広がる活動

取組等の概要



探究学習発表会



こくさいフォーラム in Wake



韓国沃川高校との交流

1. 地域との協働による課題解決型探究学習

総合的な学習の時間「閑谷學」を3年間で4単位設定し、町役場、町教育委員会、和気商工会等、町全体のサポートを受けて地域課題解決型探究学習を展開しています。和気町支援職員3名が本校に常駐し、探究学習の企画立案や地域とのつなぎ役を担っています。本校を核とした地域の活性化と地域の担い手育成をめざし、2014年度からスタートしました。学んだことを地域で活用し実践から学ぶことで自己成長を図ります。3年間のねらいと具体的な活動は次のとおりです。

○1年次：自己と学問のつながりを調査し考察する。

- ・探究の調査とインタビュー方法、発表手法を学ぶ。
- ・グループ活動を通じて、自他への想像力、学校や地域と自己のつながりを感じる。

○2年次：自己と社会（世界）とのつながりを体験・調査し考察する。

- ・テーマに対する探究学習の目的・計画を立案し、体験・探究する。
- ・探究学習を通じて社会の諸問題と自己及び自己の進路のつながりを感じる。

○3年次：自己とこれからの社会とのつながりを調査し提案する。

- ・各自の進路に応じて学問分野や業界の予想される未来像、実現したい未来像、自分がしたいことや提案をまとめる。

2. 国際理解学習

(1) こくさいフォーラム in Wake

年3回程度、県内在住の留学生を招き、ワークショップを通して海外の文化を学びながら、自分が生きる地域と世界について英語を活用して体験し、グローバルにもローカルにも共通する知見を学びます。さらに、県外から地域活性化の専門家を招き、「多様な主体による協働会議」を開催し、地域の未来や学校と地域の協働の在り方について、地域の方を交えて協議しています。

(2) English Camp

高校生が企画したアイスブレイクや英語ゲーム、外国人による文化紹介等を通して、和気町の小中学生に英語と触れあう機会を提供し、外国の方と英語でコミュニケーションを取れることの楽しさを知ってもらいます。

(3) 海外の姉妹校との交流

海外の高校5校（中国2、韓国2、台湾1）と姉妹校協定を結び、交流しています。今年度、韓国沃川高校とは、本校から訪問団派遣及び沃川高校から本校文化祭参加で交流しました。また、10月の修学旅行では韓国昌原龍湖高校を訪問しました。

岡山県立矢掛高校

神楽イノベーション

～学生コンテストからの地域展開～

取組等の概要

授業で「学生コンテスト」にチャレンジ！

矢掛高校では普通科探究コースの「総合的な学習の時間」を使って、全国で行われている様々な「学生コンテスト」に積極的にチャレンジしています。様々なコンテストに応募する中で、地域への取材や地域との協力が生まれることもあり、コンテストが終わってからも地域と関わっていくきっかけになっています。今回はH29年度に応募したある作品に注目してみます。

【応募コンテスト】 第一回 岡山イノベーションコンテスト 新しい発想や技術で、岡山県内外にイノベーション（革新）をもたらすような企画の提案を行うコンテスト



【提案の内容】

【地域の課題】

矢掛町は最近観光地化されているが、まだまだ外国人の姿が見えない。

【地域の特徴】

矢掛町周辺には10以上の神楽団体があり、お祭りなどで地域住民が親しんでいる。

【地域への提案】

備中神楽の定期公演を行い、インバウンド観光(外国人向け観光)を促進してゆく。

実現策

- ・定期公演を行える「矢掛座」の建設
- ・神楽関連をつないだ「神楽ゾーン」の創出
- ・やかげ学やボランティアなどで「後継者育成」

【コンテスト結果】

第一回 岡山イノベーションコンテストに応募

↓
高校生の部
大賞受賞

↓
実現に向け活動開始



まずはアポどり！



神楽太夫さん(勉強会)



矢掛町長さん(報告会)



中国銀行さん(資金相談会)



模擬公演実施 in 矢掛高校

H30年
後輩
2代目にも継承され



アメリカ修学旅行生と「神楽体験交流」



地域の村祭り「神楽カンタン解説」



「インバウンド神楽モニターツアー」1泊2日19名

TO BE
CONTINUED...

【取組成果】 コンテストの提案内容に悩み、プレゼンで緊張し、受賞で喜び、実現に向け多くの方に自分たちから出向いていき、勉強させていただき、励まされ、叱られ、褒められ、喜んでもらえ... 地域と関わることで貴重な経験をしつつ大きく成長しています。

岡山県立勝間田高校

ワサビ田復活プロジェクト

～勝間田高校生パワー！荒廃したワサビ田の復活を目指して～

取組等の概要



本校は、岡山県の北東部の勝央町にあり、農業に関する学科と総合学科の併設校です。その中でグリーン環境科園芸類型では、平成25年度からワサビ田復活プロジェクトに取り組み、現在6年目に突入しています。学校のある勝央町の隣町である奈義町馬桑地区では、昭和5年からワサビ栽培が行われており、かつては年間20トン以上を生産するワサビの産地でした。しかし、後継者不足などから徐々に栽培が縮小し、現在はほとんど栽培されなくなっています。この事実を知り、農業を学んでいる高校生の力でワサビ田を復活させたいと思い、このプロジェクトに取り組みすることになりました。このプロジェクトのテーマとして、特産物だったワサビ栽培の復活に取り組み地域を活性化することを目指しています。

取組①「ワサビ栽培を復活させて特産物とする」

現地調査ではワサビ田は壊滅状態で、雑草と落ち葉に覆われた原野のようになっていましたが、ワサビ栽培に必要な、夏に涼しい気候と冷たくきれいな溪流の水があるという環境が整っており、再整備すれば栽培できると判断して整備を開始しました。整備後ワサビを植え付け、3年目となる平成29年にはワサビを収穫することができました。

取組②「復活させた場所で栽培を継続する」

ワサビは定植から収穫までに3年間の月日が必要なため、定期的に除草や水の管理などを行っています。その年に収穫した分の量だけ、新しくワサビ苗を定植し、水害などで侵入した土砂を取り除くなどの管理をして安定した栽培技術の確立を目指しています。

取組③「新たなワサビ田の整備・ワサビを活かした新たな特産品の生産に取り組み」

安定した生産量を確保するために、地域の方と連携して新たなワサビ田の整備を進めています。また、学科間連携により、食品科学科がワサビを使った商品開発を行い「ワサビアイス」を考案しました。鳥獣被害を防ぐための柵やネットでワサビ田を囲み、新しいワサビ田に苗を定植する予定です。

岡山県立烏城高校

地域とつながる

多様な年代の人とつながる

未来へつながる

定時制高校生の社会貢献活動

取組等の概要



烏城高校のシンボル
八咫鳥（やたがらす）



地域とつながる生徒会活動を京
山ESDフェスティバルで発表



地域に感謝の気持ちを込
めて、金曜日に清掃活動

金ボラ（金曜ボランティア）

子どもたちの「ありが
とう」の声が活力に！

京山地区ESD推進協議会との
連携 水生生物の採集補助



「花いっぱい運動」や「ギフト作り」で、地域の保育園・幼稚
園・京山公民館にプランターに植えた花や園児への折り紙を贈呈

ザンビアから感謝のビデオレター



生涯学習センターとの連携「科学
キッズフェスティバルin京山祭」



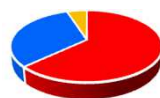
京山公民館との連携 池田動物
園で「京山にこここウォーク」



海外在住者との連携 ザンビア
へ折鶴と筆記用具を贈呈[グロー
バルな視点での社会貢献活動]

社会貢献活動の経験が、
次の社会貢献活動に
つながっていく

「またボランティア活動をしたいですか？」



- とてほしい 63%
- したい 32%
- あまりしたくない 5%
- (全くしたくないは0%)

(ボランティア活動参加後に実施したアンケート)

岡山県立岡山大安寺中等教育学校

「羽ばたけ大安寺生」

全員参加のオーストラリア海外研修及び前期DAIANJIプロジェクト
成果発表

取組等の概要



ブリスベンで全員集合



シャフストン語学学校修了式



羽ばたけ大安寺生ステージ発表

海外研修

前期課程の最後3年生の3月に、3年生全員がオーストラリアで約2週間、一人一家庭でのホームステイを行い、現地学生やホストファミリーとの交流を通じて、異文化理解を深めます。また、語学学校で英語の授業を受けたり、自分たちで行動計画を立てて、班別自主研修なども行います。1年生から「コミュニケーション」（国語）や「スピーキングイングリッシュ」といった科目を設定し、骨太な英語力やコミュニケーション能力を身に付けたり、日本に留学している海外の学生を招いて交流会を行ったりするなど、海外研修に向けた様々な取組が行われています。

DAIANJIプロジェクト

総合的な学習の時間等を活用し、行動力・実践力・課題解決能力などを備えた、「たくましい人間力」を育成する取組も行われており、その柱の一つでもあるキャリア教育として、1年生でのジョブシャドウイング、2年生でのジョブインタビューやチャレンジワーク、海外研修における職業体験や4年生での関西キャリア研修などが行われています。

羽ばたけ大安寺生

海外研修や前期課程での「DAIANJIプロジェクト」の成果を、4年生の6月に発表しています。前期生徒と保護者・一般の方を前に、ステージ上でスピーチやポスター・冊子等の形で発表、シンポジウム形式の討論や講演会を実施しています。今年度は、岡山大安寺高校のOB、東京大学の枝川教授をお招きして、講演会を行いました。

このような取組により、海外研修を終えた4年生は、主体的に行動することの大切さや、様々な人や物事に幅広く目を向ける視野の広さを身に付け、下級生は、自分たちがこれから身に付けていくべき力について理解し、興味を深めることができます。